

サトウキビ生産者の経営改善支援

■ 認定農業者、新規就農者 ■

(東讃農業改良普及センター ○阿部和美、遠藤温子)

●対象の概要

香川県におけるサトウキビ栽培は東かがわ市を中心として、さぬき市、三木町、高松市で行われている。栽培状況については、平成24年には栽培面積8ha、栽培農家数50～80戸程度であった(H24報告書「普及指導の成果」記載)。また、平成26年には、栽培面積は10.3haとなっている(H26報告書「普及指導の成果」記載)。現在でも東かがわ市において、東讃地域三盆糖等原料生産組合が約25戸で約7ha栽培しており、収穫作業の労力軽減のため、平成27年から当組合においてハーベスターを導入している。また、収穫されたサトウキビは契約している管内の製糖会社などに出荷されている。

●課題を取り上げた理由

農業経営の改善を計画的に進めるために、農業経営改善計画書の作成を支援しているが、支援にあたっては品目選定に重要な10aあたりの収入や経費、必要な労働時間などを把握しておく必要がある。しかし、出荷形態が地域特有であったり、栽培されているのが特定地域に限られていることなどから、基準となる農業経営指標が作成されていない品目がある。

サトウキビは、ほぼ契約栽培であることから単価が安定している品目として、栽培を検討する人は多くいるが、経営状況を反映した基本となるデータがないことから、経営改善を進めるにあたり十分な支援が難しかった。

そこで、サトウキビ生産者の経営改善を支援するために、サトウキビの栽培に取り組んでいる農業者に経営状況調査やサポート活動を行うことにより、サトウキビ生産者の経営発展に向けて支援することとした。

●普及活動の経過

1 経営モデル調査の実施

1) 調査対象の選定

経営状況や作業内容、作業時間をより正確に把握するため、調査対象は複式簿記を正しく記帳できている経営体であること、生産組合に加入して、ハーベスターを利用していること、また、今後地域の担い手としてサトウキビ栽培を継続又は規模を拡大する可能性があることなどを条件に、2戸のモデル経営体を調査対象として選定した。

2) 聞き取り調査と現地の状況確認

今までの経験に基づく労働時間や収穫量など、調査で得られる数値との差を把握するため、聞き取り調査を行った。また、主な作業の時に作業の状況を実際に確認することで、労働時間だけでなく、労働の強度や一人で行える作業か補助が必要な作業かなどの状況を確認した。



ハーベスターによる収穫作業

2・研修会の開催

新型コロナウイルス感染症対策に配慮し、少人数の参加による経営能力ブラッシュアップ研修会を開催し、モデル経営体に参加するよう働きかけた。研修会では、自らの「農業簿記青色申告決算書」を見ながら、その数字の見方と、決算データを用いた経営分析の演習を行い、税理士の助言を受けることにより、経営状況の把握と、今後、農業経営のどの部分を見直していくべきか検討を行った。



研修会における経営分析

3 サポートチームによる支援

親からの経営承継と後継者の就農という課題に対し、税理士や社会保険労務士などの専門家を交じたサポートチームを編成し、経営分析や労務管理などについて助言を行うことで、課題の解決に導いた。また、これらの支援内容については、今後の取組につなげられるよう担い手育成部門の打合せ会の中で情報共有した。

●普及活動の成果

1 経営モデル調査結果

1) 経営状況の取りまとめ

経営調査を実施したことにより、サトウキビの10aあたりの必要経費や所得等の参考となる経営状況を取りまとめることができた。ただし、新たに栽培に取り組む場合は、減価償却費などについて、現実に即した数字に調整する必要がある。

また、今回は中核的な2戸の農家の調査であり、家族労働力が十分確保されていることから作業が天候などで左右されても、労働力確保や労働配分に問題ない経営体であったことも考慮する必要がある。

2) 作業内容の状況把握

聞き取り調査から、作業内容やその作業に要する人数と作業時間を把握することができたが、実際に作業を確認することで、労働の強度や作業環境などの条件が分かり、よりの確な助言を行うことができた。

さらに、実際の収穫作業は、組合や契約先の都合に合わせてなければならないことから、一人で作業をする場合はスケジュール調整が必要であることが分かった。

3) 経営課題抽出

経営状況の聞き取り調査から、経営体の抱える問題点が明らかになった。調査対象の経営体では、次年度用の種キビの保存に失敗することが多く、同じように保存していても年によって腐ったり、根が出てきたりと上手くいかないことがあった。今年は周囲の4経営体から余剰分を集め、同じ日に定植したところ、その後の生育に差が出ていたことから、保存方法の違いが影響しているものと考えられる。

2 経営分析による経営状況の把握

モデル経営体を研修会に参加誘導し、経営分析を行ったことにより、経営改善に対する目標が明確になり、意欲も向上した。また、モデル経営体については、後継者が就農する予定であり、サポートチームの支援を通じて、家族の中で作業分担や収益の配分を考えていく上で経営管理能力の向上の必要性を認識できたとともに、後継者夫妻を含めた家族経営協定の締結につながった。

3 新規就農者等への栽培の広がり

モデル経営体では、就農希望者の研修を積極的に受け入れるなど、新規就農者の中にも栽培品目としてサトウキビの導入を希望する者も少しずつ増えてきた。今後、サトウキビ栽培の経営を安定させることで、生産者の世代交代に合わせて、新規就農者へ栽培が広がり、作付面積の拡大が期待できる。

また、管内でも新たな地域で、耕作放棄地対策として、サトウキビ栽培の導入を検討する動きがある。

●今後の普及活動の課題

今後、農業者が新たに栽培に取り組む場合や、規模を拡大する場合など、今回の調査で得られたデータに表れてこない労働強度や収穫日程の不確定要素とともに、労働力配分なども念頭に置いて農業経営改善計画書の作成支援を行い、経営改善につなげていく必要がある。

さらに、安定した経営に向けて、技術経営班と連携し種キビの保存方法や入手先などについても検討を行う必要がある。